

センター長	学務部長	教務課長	副課長	係長	係員
(大石)				(佐賀)	

## 出張報告書

平成 22 年 7 月 12 日

高等教育開発センター長 様

(部局等) 佐賀大学 文化教育学部

(官職) 教授

(氏名) 岡島 俊哉 (印)

このたび出張しましたので、下記のとおり復命します。

出張期間	平成22年 7月 9日(金)
出張先	サピアタワー 東京ステーションコンファレンス 東京都千代田区
出張内容	ポートフォリオSNSの先端事例研究セミナー(第5回)に参加
出張内容の概要	<p>当日は、名刺を2枚提出した。配布資料:(1)「本日のプログラム」、(2)「manaba活用ブック」冊子、「manaba course」および「manaba folio」のパンフレットおよび3つの大学の発表パワーポイントが配布された。</p> <p>開会の挨拶は、クラウドサービスを担当している滝口氏から行われた。「ASAHIネットはインターネットプロバイダで、manabaは教育機関向けサービスである。manabaはすでに30以上の大学で利用されている。ICTによる教育のイノベーションが言われているが、ICTは道具であり、道具がイノベーションをしてくれるわけではないので、優れた道具を手にするとともに、我々が高い理想に向かって行動してはじめて驚くようなイノベーションが創造されていくと信じている。」</p> <p>プログラムに記載されているように、ASAHIネットの担当者による各パンフレットの説明が数分間行われた後に、各大学の実践例が紹介記される形態はわかりやすかった。3つの大学による発表はそれぞれのパワーポイントの内容に沿って行われた。</p> <p>藤原氏は事務職員で「対応の素早さ、アフターケアなども非常に満足していると、ASAHIネットに高い評価をした。藤原氏の講演の質疑応答では、現在紙で行っているようなアンケートもすべて manaba course を利用して行いたい、授業評価など学生名が出ない形で活用できるか、などの要望があり、そのような需要があることは認識しており、現在調査あるいはある大学で試験中であるとの回答があった。</p> <p>辰野氏の講演は、入学前教育で活用例であったので、「学習の価値付けはどうなっているか、大学在学中(4年間分)の活用法」について質問があった。辰野氏は「キャリア支援のため、学生の能力を入学前に判定し4年後の就職に結びつけていくという活用ができる。」と考えるが、まだ始まったばかりなので現在ではとにかく学習履歴が蓄積されていくことに意味があると思っている。教員が学生と一緒に振り返るという利用が、実際に当面行われていく使い道であると思っている。現在は、今後新たな使い道が考えられていく段階と考えている。</p> <p>閉会の挨拶では、小松氏が「次回は9/10(京都)「教職実践演習について」の広報があった。挨拶終了後に、manaba course と manaba folio についてのデモンストレーションがあり、ポートフォリオがどのようなものであるかイメージできた。</p>